

南 支

衛生兵勤務あれこれ

栃木県 野 中 悌 延

—簡単に軍歴を話して下さい。

昭和十四年一月十日、宇都宮野砲第二〇連隊第三中隊に砲兵として現役で入隊しました。一期検閲を四番砲手で終了、その後人の面倒がよいからと陸軍病院で衛生兵教育を受け、終えて第三中隊に衛生兵として配属になりました。

満期まで五十日とせまった時、宇都宮で産婦人科をやっていた中田軍医が、野中を連れていくんだと外地派遣隊に編入され、中隊付衛生兵として満州コロ島に上陸

して、錦州に三か月駐屯。ふたたびコロ島から南支沙河（九竜と広東の中間）に上陸、そこから三十キロ山奥へはいった増城に駐屯する第五十一師団（基兵团）百十五連隊第三中隊（高崎、遠藤大佐）に到着した。

昭和十六年十二月八日大戦勃発、現役兵が補充にきたので召集解除となり、内地に帰り軍需工場で働いた。残った部隊はニューギニアで全滅してしまった。八人しか同年兵は残っていない。ニューギニアに行っていれば今ごろ海の底かしたになっている。「軍隊は連隊」というがまったくそのとおりだと思う。

二十年二月にふたたび赤紙がきて、相模原通信隊付の衛生兵となり、朝鮮か内地かだったが、結局内地勤務となり千葉成田に配属され、衛生兵業務やりながら衛生軍曹で復員。実役六年だった。復員のとき馬をやるから

乗って帰れと隊長にいわれたが乗れないので、そのまま家に帰った。

南支増城で一年六か月中隊付衛生兵として勤務しながら警備と討伐、そして現地住民の治療にあたりました。

現地人が腹が痛い、怪我をしたときはちゃんと薬を与え、治療をしたりして努力してきた。原住民に心から親切に治療をしてやると非常に喜んで、産物を持ってきてくれた。

「シーサン、シェシェ（先生、謝々）」

とどけてもらった時は嬉しかったね。敵国民であろうと面倒をみてやり、心から感謝されたことは誇りだったですよ。ただ打ったり、略奪じゃなく、奉仕をやったのは今思うとよくやったなあと思う。自分が滅多に食べられないものでもお札に持つてくるんだから。

—風土病は。

そりやもうありますよ。一番多いのはライ病患者、広東省だけで三万人いるといわれてる。まあすごかったね。耳のないひと、鼻のない人、身体の変形した人等そりや多かった。だから私が中山大學のある師団司令部勤

務中、広東の陸軍病院に出張するため汽車に乗る。おりるときは消毒薬を頭からかけられて大変だった。

法定伝染病だからチフス、これらが猛威をふるっていた。衛生軍曹だから仕事は忙しかったです。患者をトラックで送るのに強心剤を打ち、脈拍をはかりながら病院まで送りこむ。兵隊にはライ病はいなかったが、コレラにやられた。狸窮後重（りきゅうこうぢゅう）といって下腹が痛く、はじめは色のついた下痢便だが身体の部分がとけて米のとき汁みたいになり、身体の水分がなくなり、皮膚をつまんでももどらない。吐いたり下ったりして早い人は二十四時間で死ぬ。それで昔の人はコロリといったんだね。

増城にいた時に軍医が毎週土曜日に慰安婦百人ぐらいの検診をやるんだが、毎週毎週ではいやになり、
「野中軍曹、代理を命ず」

で代理で検診もやらされたこともありました。なにしろ軍隊で伝染病は治療よりも予防が大切でした。

—内地でのご経験は。

内地の時はB29がきた夜は対空砲火がまるで花火大会

のようでした。あのときは一億火の玉総決起の時代だったが、大変な戦争をやったもんだ。隊の近くに精米所があったので、黒い玄米も白米になって助かった。

内地でも弱い兵隊がはいつてくるようになり、意志の弱い兵隊が列車に飛び込み自殺をした時は死体の始末をしたが、膝から切断、頭は小脳の部分が少し残っているだけ、股から白い骨がとびだしていた。近くの農家からかますを貰って担架にして肉片をレールのうえを歩いて拾って陸軍病院に運び、つなぎあわせて形をつくり、包帯でグルグル巻きにして復元し親を呼んで確認させた。

「あなたの息子さんの特徴は」

「へそにホクロがあります」

確かにへそにホクロがあった。

「私の子供です」

と引き取っていった。

―事後の取扱は戦死ですか。どうなりました。

まあ戦病死として処理しました。もう一つの例は、便所でゴボー剣で首のノドを切ったが急所をはずしたので

血だらけの中で血文字で

「コレデイキラレマスカ」

と書いてあったのにはあきれましたね。切り口がパツクリあいてだき起こすと首がガックリうしろへちぎれるかと思いましたが。陸軍病院へ急送したが、どうなりましたか知りませんが。

増城では砲弾でやられ大腿部がグチャグチャとザクロのようになっているのを切断するのに麻酔薬がきかず、痛い痛い泣くのを鋸で骨を切り、切り口をまんじゅうを作るときのようにしぼり手当をするんですが、衛生兵をやっているといろんな傷の手当てをやりました。

大隊本部の苦悩

福島県 斉藤 榮

―斉藤さんの簡単な軍歴をどうぞ。

こまかいことは記憶にありませんが、おもなことを申し上げます。